

メッセージアウトライン

テサロニケ人への手紙 第一4:1~8 「神のみこころは」

[1]「終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください」

「終わりに」とあるように、これは今までの1~3章を受けた結論部分であり、具体的な勧めが述べられていく。まずこの1節では一般原則として神を喜ばすべき生き方をするように勧められている。ここでの「歩む」は「生きる」と同義語。神を喜ばすべき生き方とはテサロニケ人たちがすでにパウロたちから学んだことであり、今も実際そのように生きているのであるが、ますますそのように励んでくださいと言う意味。クリスチャンに求められているのは、神を悲しませる生き方ではなく、神を喜ばせる生き方である。

[2]「私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたかを、あなたがたは知っています」

「主イエスによって」とあるように、パウロたちが彼らに授けた命令の起源はすべてのものの支配者である主イエス・キリストにある。パウロたちが勝手に考え出したことではない。その命令とはクリスチャンの生き方についての実際的な教えである。その内容は3節以下で述べられていく。

[3-5]「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、神を知らない異邦人のように情欲におぼれず」

パウロは神のみこころをはっきり示す。それは彼らが「聖くなる」ことである。これは文脈から見れば道徳的、性的純潔についての教えである。当時の世相は姦淫や不道徳は当たり前のことであり、未婚の男女がからだを潔く保つという概念などなかった。このような時代背景、環境の中でテサロニケの人々は信仰に入った。それでクリスチャンとして新しく生まれたとはいえ、彼らは当時の社会の影響を常に受けていた。それで彼らが、これまで当然のこととして受け入れてきた行動様式、考え方を変えるためには正しい知識と理解、そして正しく生きるための力、すなわち神の恵みが必要であった。

当時は、霊は尊ぶが肉（からだ）は卑しむという霊肉二元論をとるギリシヤ哲学の影響で人々は平気で姦淫に走っていた。しかし、聖書はからだも神が造られたのであり、そのからだをもって神の栄光を表すべきことがはっきり教えられている。

→創世記2章、Iコリント6:19~20

「不品行を避け、自分のからだを聖く、また尊く保ち、情欲におぼれないこと」これが救い主イエス・キリストを信じ、罪贖われ、滅びから救われ、新しく生きる者とされたクリスチャンの生き方である。

[6]「また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです」

ここでは今まで述べてきたことがらが隣人との関係で展開されている。性的な不品行は個人的な聖めに大きな害を与えるばかりではなく、兄弟姉妹、隣人との関係にも深刻な影響を及ぼす。

それゆえ、性的不品行によって信仰の兄弟姉妹を踏みつけたり欺いたりしないこと。これは警告である。「踏みつける」とは原語では限度を越えて歩む、法を犯すとの意味がある。

そして、このような警告が無視されて罪が犯されていくなれば、主はそれらすべてのことについて正しくさばかれることになる。人をだまし、欺くことはできても、神を欺くことはできない。

やがて神の前に立つとき、人はその生き方に対する当然の報いを受けることとなる。それが神のみこころにかなった良い生き方であれば、当然、良い報いを受けることになるが、みこころにかなわない（ここでは性的不品行とそれによって兄弟姉妹、隣人の信頼を裏切り、失望させ、害を与えること）生き方をしているならば、当然、厳しいさばきを受けることとなる。→ローマ2:6

この警告は今回が初めてではなく、前もってパウロたちが厳しく警告していたことである。

[7]「神が私たちに召されたのは、汚れを行わせるためではなく、聖潔を得させるためです」

神のみこころは私たち信仰者が汚れた生き方を捨てて、道徳的、性的に聖く生きること。これが、私たちに召して救ってくださった神に対する責任である。特に道徳的に乱れた時代に生きているクリスチャンにとって、これはしっかりと覚え、実行しなければならない大切な指針である。

[8]「ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです」

今までの警告を軽んじて拒む者は人を拒むのではなく、神を拒むことになる。神はご自分のしもべ（ここではパウロたち）を通してみこころを示された。それは彼らが勝手に考え出したことではなく、神のみこころであり、権威は神にある。人間だけを見て、彼をして語らせている神を無視してはならない。聖い生き方は自分の力で成し遂げていくものではなく、神が信仰者に与えてくださる聖霊の働きによって、そのように生きさせてくださるのである。

それゆえ、パウロたちを通して与えられている勧め、警告を拒むということは聖く生きるための聖霊を送ってくださる神を拒むことになる。

今や神のみこころははっきりと聖書に示されている。そして、牧師、伝道者、宣教師などの働き人たちの口を通して解き明かされ、勧められ、警告が与えられている。私たちはこのように神のみこころをはっきりと知る機会が与えられているのであり、神は私たちに与えてくださった聖霊によって聖い生き方ができるようにしてくださるのである。

私たちも謙遜になって神のみこころを行い、汚れではなく聖潔を得る者、聖い生き方に励む者とならなければならない。